

[成果情報名] 2004年の山形県におけるコイヘルペスウイルス病の発生状況

[要 約]

コイヘルペスウイルス病は6月～11月までの間に69件確認され、8月が発生のピークであった。発生場所では、個人池での発生が多く59.4%を占め、次いで天然湖沼河川や用水路で23.2%、業者池と公園等はいずれも8.7%であった。

[部 署] 内水面水産試験場・生産開発部

[連絡先] TEL 0238-38-3214

[成果区分] 政

[キーワード] コイ、コイヘルペスウイルス病、魚類防疫

[背景・ねらい]

コイヘルペスウイルス病の発生時期や発生場所を調査して、今後の防疫対策や防疫指導に役立てる。

[成果の内容・特徴]

1. 2004年6月4日に本県において初めてコイヘルペスウイルス病（以下KHVD）が確認された。
2. KHVDの発生は11月4日までの約5ヶ月間継続し、計69件が確認された。
3. 8月が発生のピークで、全体の46%（32/69件）が8月に発生しており、高水温期の疾病であった（表1）。
4. 発生場所については、個人池での発生が圧倒的に多く、全体の59.4%（41/69件）を占め、次いで天然の湖沼河川や用水路で23.2%（16/69件）、養殖・加工・釣堀等の業者と公園や学校の池や堀がいずれも8.7%（6/69件）であった（図1）。
5. コイは養殖や加工業者だけでなく、天然の湖沼河川や用水路、公園等の池や堀、個人宅の庭の池に、非常に広範囲にしかも多数分布している。KHVの強い感染力とともに、このことが被害の拡大を招いた大きな要因といえる。

[成果の活用面・留意点]

- ・5月以前に汚染地域と接点のあった業者についてPCR検査によるKHVの検出を行ったが、全て陰性であった。この中には、後に発生することになる2業者も含まれており、外見上健全なコイを検査しても検出は困難である。
- ・コイは生息あるいは飼育されている場所が非常に多数であり、KHVは水を介しての水平感染が容易であるので、発生場所に封じ込める対策だけでは十分な防疫対策とならない。

[具体的なデータ]

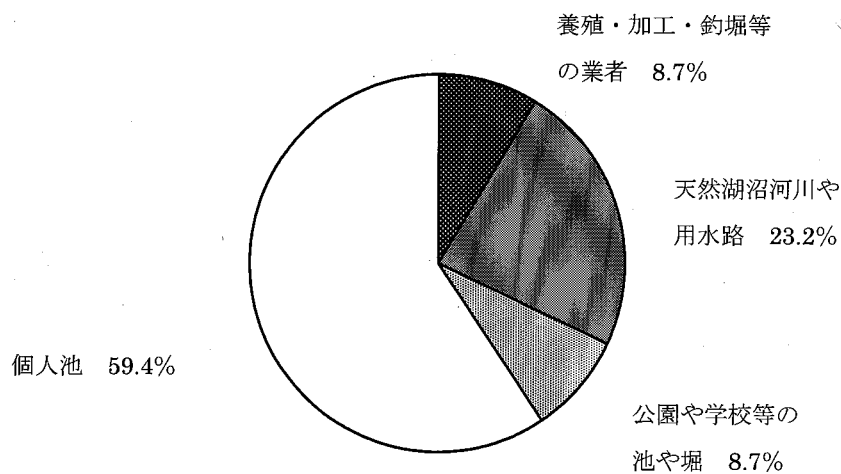
表1 2004年の山形県における月別・発生場所別の KHVD 発生件数

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計	%
養殖・加工・釣堀等業者	3	2	1				6	8.7
天然湖沼河川や用水路	6	3	3	3		1	16	23.2
公園や学校等の池や堀	2	1	2		1		6	8.7
個人池	1	5	26	6	3		41	59.4
計	12	11	32	9	4	1	69	100

注1:確定診断結果陽性件数 67 件に天然水域での1次診断結果陽性件数 2 件を加えた計 69 件を発生件数とした。

注2:11月の1件は、10月にへい死の通報があり、11月に陽性と確定されたものである。

図1 発生場所別の KHVD 発生状況



[その他]

研究課題名：増養殖技術指導

予算区分：県単

研究期間：平成16年度（平成15～19年）

研究担当者：茂木省三、佐藤年彦、高橋伸明

発表論文等：